

1. 長崎県 2. 鹿児島県 3. 佐賀県 4. 福岡県

1. 自然的増加 2. 転入超過 3. 人口密度の上昇 4. 社会的増加

1. 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。
2. 1年のうちに同じ水田で2回米を収穫する二期作を行い、食料自給率の向上に貢献している。
3. 連作障害を防ぐために、数年ごとに栽培する作物を入れ替える輪作を大規模に導入している。
4. ビニールハウスを利用して夏野菜の成長を早める促成栽培を行い、冬の出荷額を高めている。

1. 九州地方は中国・四国地方に比べて人口が多く、農業生産額も大きい
が、工業出荷額は中国・四国地方
の方が大きい。
2. 中国・四国地方は九州地方に比べ
て人口が多く、農業生産額も工業出
荷額も九州地方を上回っている。
3. 九州地方は中国・四国地方に比べ
て農業生産額は小さいが、工業出荷
額と人口において中国・四国地方を
大きく上回っている。
4. 中国・四国地方と九州地方を比較
すると、人口、農業生産額、工業出
荷額のすべての項目において九州地
方が中国・四国地方を上回っている
。

1. 年間を通じて降水量が少なく、夏と冬の気温差が非常に大きい内陸型の気候である

2. 1月の平均気温が氷点下となり、夏は高温多湿だが冬は乾燥する気候である

3. 年間を通じて温暖であり、特に梅雨の時期にあたる6月から7月の降水量が著しく多い

4. 冬の季節風の影響を強く受けるため、12月から2月にかけての降水量が一年で最も多い

1. 鹿児島県 2. 静岡県 3. 三重県 4. 千葉県

1. 種子島 2. 壱岐 3. 対馬 4. 五島列島

1. かつて盛んだった金属工業は完全に衰退し、現在は食料品工業と化学工業が県内の出荷額の大部分を占めている。

2. 海外からの輸入に頼る石油化学工業が急速に発展したため、金属工業や機械工業の出荷額は全国平均を下回るようになった。

3. 内陸部でのIC（集積回路）生産が中心となり、臨海部に位置する北九州工業地域の金属工業の割合は極めて低くなっている。

4. 古くから盛んな鉄鋼などの金属工業を土台として、その材料を利用する自動車などの輸送用機械の生産が近年拡大した。

1. 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業	2. 急傾斜地を切り拓いて作られた段々畑での温州みかんやレモンなどの果樹栽培	3. 温暖な気候を利用したビニールハウスによるピーマンやきゅうりの促成栽培	4. 広大な土地を利用した乳用牛の飼育と、バターやチーズなどの乳製品の加工
---------------------------------------	--	---------------------------------------	---------------------------------------

1. 福岡県 2. 岡山県 3. 兵庫県 4. 広島県

1. 高度経済成長が終わりを迎え、それまで激しかった大都市圏への移住者が減少したため。

2. バブル経済の影響により大都市圏の地価が高騰し、住居を求めた人々が地方へ一斉に避難したため。

3. 大都市圏で深刻な干ばつが発生し、水資源が豊かな九州地方へ農業従事者が移動したため

4. 第一次石油危機の影響で大都市の全ての工場が閉鎖され、強制的な帰郷が命じられたため。

1. 促成栽培 2. 近郊農業 3. 抑制栽培 4. 二毛作

(2022年 滋賀県公立入試 類似)